

## がん検診受診促進・精度管理のための主な取組みについて

「神奈川県がん対策推進計画」の3つの柱の1つ「がんの未病改善」のために取り組んでいるがん検診受診促進・精度管理に関する事業は次のとおりです。

### 1. がん検診受診促進のための取組み

#### (1) 地域・職域が連携したがん検診の受診促進

##### ① 職域（企業向け）の取組み

がん検診の重要性を認識しているが実際の受診行動には結びついていない人々を具体的な受診行動に結びつけるため、平成23年度から「企業研修による企業（職域）での受診促進」と「企業連携による県民への受診促進」を実施している。

##### ア 企業研修開催回数・参加者数

年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度
開催回数	20回	21回	22回	20回	8回
参加者数	約660名	約712名	約779名	約269名	約253名

(※) 令和元年度は10月末までの集計値

##### イ 普及啓発リーフレット・ポスターの作成・配布数

年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度
リーフレット	60,000枚	60,000枚	60,000枚	60,000枚	50,000枚
ポスター	3,000枚	3,000枚	3,000枚	—	—

##### ② 地域における住民向けの取組み（県保健福祉事務所・市町村）

保健福祉事務所は、県民及び地域企業等におけるがん検診受診率の一層の向上を図るため、地域のニーズや実情に応じた「がん検診普及啓発セミナー」の開催や、市町村の実施する市民祭りや健康フェスティバル等のイベントの際に、検診受診の啓発活動を実施している。

##### ア がん検診普及啓発セミナー

年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度
開催数	30回	42回	38回	45回	34回

(※) 別日程でも同じ場所での実施は1回としてカウント（令和元年度は予定）

##### イ 地域企業におけるがん検診受診促進事業

年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度
対象事業所数	約4,400	約3,600	約2,776	約1,992	約3,565

(※) 令和元年度は予定

(2) がん体験者と連携したがん検診の受診促進

① 講座形式による実施

「がん体験を身近に感じること」は、受診行動につながる傾向があるため、県職員によるがん検診の普及啓発と、がん体験者による体験談を組み合わせた講座を実施している。

② 「リレー・フォー・ライフ」への出展

がんと闘う人々を支援するイベントである「リレー・フォー・ライフ」に出展し、リレー・ウォークと併せて、がんの正しい知識や、がんになった際の対応等を普及啓発している。

■ 令和元年度事業実績

イベント名	開催日	場所	県の役割	出展	挨拶者
RFL 横浜	9月7日～8日	臨港パーク芝生広場	共催	有	首藤副知事

(3) 効果的ながん検診の受診勧奨

① がん検診推進事業等（クーポン券等事業）

市町村（及び特別区）が実施するがん検診において、指定年齢の方に、検診手帳及び検診費用が低廉または無料となるクーポン券等を送付し、がん検診の受診促進を図るとともに、がんの早期発見とがんによる死亡者の減少を図っている。

	子宮頸がん	乳がん	大腸がん
H21	女性特有のがん検診推進事業		/
H22			
H23～H25	がん検診推進事業		
H26	働く世代の女性支援のためのがん検診推進事業		がん検診推進事業
H27	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働く世代の女性支援のためのがん検診未受診者対策緊急支援事業</li> <li>・新たなステージに入ったがん検診の総合支援事業</li> </ul>		
H28～H30	新たなステージに入ったがん検診の総合支援事業		/

実施主体	市町村
対象者 (年齢は、平成31年4月1日現在)	<p>&lt;個別の受診勧奨・再勧奨&gt;</p> <p>胃がん 50～69歳の男女（胃X線については、40～69歳の男女）、大腸・肺がん 40～69歳の男女、子宮頸がん 20～69歳の女性、乳がん 40～69歳の女性</p> <p>&lt;子宮頸がん検診及び乳がん検診のクーポン券等配布&gt;</p> <p>子宮頸がん：20歳、乳がん：40歳</p> <p>&lt;精密検査未受診者に対する受診再勧奨&gt;</p> <p>市区町村が実施した胃がん、子宮頸がん、肺がん、乳がん及び大腸がんのがん検診の受診結果で、要精密検査となったが、その後、精密検査を受診していない者</p>

事業内容	<p>&lt;個別の受診勧奨・再勧奨&gt;</p> <p>① 平成 31 年度に実施するがん検診について、郵送や電話等により、個別の受診勧奨・再勧奨を行うこと。</p> <p>② 平成 31 年度に実施するがん検診について、かかりつけ医を通じて、がん検診及び精密検査に関する個別の受診勧奨・再勧奨を行うこと。</p> <p>&lt;子宮頸がん検診及び乳がん検診のクーポン券等配布&gt;</p> <p>③ 対象者に対するクーポン券の送付</p> <p>④ 対象者に対する検診手帳の送付</p> <p>⑤ 対象者がクーポン券を利用してがん検診を受診する場合の自己負担分の助成措置の実施</p> <p>&lt;精密検査未受診者に対する受診再勧奨&gt;</p> <p>⑥ 対象者に対する郵送や電話等による精密検査受診の有無の把握及び未受診者への個別の精密検査の受診再勧奨の実施</p>
補助対象経費	<p>【事務費】 上記①～④、⑥実施に係る事務費</p> <p>【検診費】 <u>上記⑤実施における自己負担額相当部分の費用。ただし、受診者に自己負担額が生じる場合、当該自己負担額と実施要綱に定める厚生労働省大臣が必要と認める単価との差額を対象経費とする。</u></p>

## ② ピンクリボンかながわ

乳がんの早期発見・早期治療及び、がん検診の大切さの普及啓発を図る。

### ■ 事業の内容

<実施主体>

主催：ピンクリボンかながわ（事務局：公益財団法人県予防医学協会内）

共催：神奈川県 ほか

<「ピンクリボンかながわ 2019」の概要>

#### ○ キャンペーン

日時：令和元年 9 月 22 日（日）11:00～16:00

会場：横浜公園（カーフリーデー内）

内容：ピンクリボンセレモニー（技監挨拶）

ダンスパフォーマンス、パレード、マンモグラフィ車展示

啓発資料・グッズの配布等（ブース設置(共用)）

#### ○ ライトアップ(7箇所)

日時：令和元年 9 月 20 日(金)～23 日(月・祝)18:00～22:00

場所：横浜市開港記念会館、象の鼻パーク、横浜税関、横浜公園、神奈川県庁、

よこはまコスモワールド大観覧車「コスモクロック 21」、

グランモール公園（栈橋の広場、眺めの広場）

## ③ がん克服シンポジウムの開催

実行委員会方式（事務局：かながわ健康財団）で年 1 回開催。

平成 29 年度：今日から使える！がん情報-自分と家族のために

平成 30 年度：人生 100 歳時代の強敵！

すい臓がん がんロコモを攻略する！！

令和元年度：がんは怖くない、がんに負けない！

正しく知ろう最新のがん医療（令和 2 年 1 月 18 日（土）開催）

【参考】実行委員：県、県医師会、県看護協会、県歯科医師会、県病院協会、  
県薬剤師会、かながわ健康財団

#### ④ 県民向けのがん検診受診促進事業

がん検診受診促進普及啓発リーフレットの配布、ホームページ、「県のたより」、  
県庁舎展示コーナー、各種広報媒体、民間団体との連携等さまざまな媒体を使用し、  
がん検診受診によるがんの早期発見等に向けた普及啓発を行っている。

##### ■ 事業の内容

- ・ がん検診受診促進普及啓発リーフレット等の作成・配布
- ・ ホームページ（かながわのがん対策）による普及啓発
- ・ 「県のたより」による普及啓発

年 1 回程度、「がん検診の受診促進」等について掲載。平成 30 年度は 5 月号に  
おいて「がん検診」をテーマに記事を掲載。

- ・ 県庁舎展示コーナーでの普及啓発

「がん征圧月間」や「女性のための健康週間」（3 月）等を活用して、新庁舎  
1 階ロビーや第 2 分庁舎 1 階県政情報センターで、パネル展示やポスター掲示。

- ・ メディアを利用した県による普及啓発

読売新聞「神奈川県からのお知らせ」にて、リレーフォーライフ等のイベント  
やセミナー等のお知らせを随時掲載。

FM-YOKOHAMA「KANAGAWA Muffin」にて、平成 29 年 8 月に「がん検診のすすめ」  
放送。

TVK「カナフル TV」にて、平成 29 年 8 月に「がん検診のススメ！～最先端の  
がん治療技術～」放送。

- ・ その他広報媒体による普及啓発

「神奈川のこくほ・かいご」に、年 1～2 回程度掲載。

- ・ 民間団体等と協働した普及啓発

NPO 法人 J. POSH から本県に寄贈されたマンモグラフィ搭載検診車を活用  
した普及啓発を実施。

#### ⑤ 神奈川県がん対策推進員認定制度

平成 29 年 3 月より、がん対策に関する包括協定\*を締結した企業等の社員のうち、  
県が指定する研修を修了したものを「神奈川県がん対策推進員」に認定し、県民に  
対して、直接、がんに関する情報提供を行うことで、がん検診の受診率の向上や、  
がんへの理解促進及びがん患者への就労拡大を図るもの。

【がん対策推進員の数】2,390 名（令和元年年 11 月末時点）

##### ※ 包括協定を締結した企業との連携

- 平成 22 年 1 月に、本県とアフラック（アメリカンファミリー生命保険会社）及び東京海上

日動火災保険株式会社は、「がんの予防・早期発見を推進するための連携・協力に関する包括協定」を締結。

- 平成 27 年 1 月に、新たに第一生命保険株式会社と「連携と協力に関する包括協定」を締結。
- 平成 29 年 2 月に、新たに住友生命保険相互会社と「がん対策の推進に関する包括協定」を締結。
- 平成 31 年 2 月に、新たに日本生命保険相互会社と「連携と協力に関する包括協定」を締結。
- 令和元年 8 月に、新たに中外製薬株式会社と「がん対策の推進に関する包括協定」を締結。
- 現在、6 社から資金的協力を得て、当課が実施する事業に配分し、市町村への支援事業、当課主催事業、キャンペーンやシンポジウム等の開催費用、印刷物の作成等に使用している。また、前述⑤の神奈川県がん対策推進員認定制度についても協力を得ている。

## 2. がん検診精度向上のための取組み

### (1) がん検診従事者の人材育成等

#### ① 神奈川県がん検診担当医師・技師等講習会

市町村が実施するがん検診に従事する医師及び技師等を対象にし、資質の向上を図ることを目的として年1回開催している。

国の「健康診査管理指導等事業実施のための指針」では生活習慣病検診等従事者講習会を開催することとなっており、当該講習会がこれに当たる。

#### ■ 過去5年間の事業実績

年度	日程	内容	参加人数
H27	8月14日	演題：「乳腺領域画像診断のコツ～超音波とマンモグラフィを中心に～」 講師：土井 卓子氏	51名
H28	8月12日	①演題：「肺がんCT検診の技術：今知っておきたいこと」 講師：村松 禎久氏 ②演題：「日立市における低線量CT検診の実務と成果」 講師：名和 健氏	47名
H29	8月24日	①演題：「対策型内視鏡検診における技術向上への工夫」 講師：細川 治氏 ②演題：「X線的な良悪性判定の基本概念を振り返る」 講師：馬場 保昌氏	72名
H30	8月24日	①演題：「正しい技術を正しく学ぼう-乳がん検診に取り組む診療放射線技師の使命-」 講師：後藤 由香氏 ②演題：「乳癌診療ガイドライン2018年版からひもとく乳がん検診のこれまでとこれから」 講師 俵矢 香苗氏	58名
R01	8月8日	① 演題：「小児・AYA世代のがん患者に対する生殖機能温存について」 講師：高江 正道氏 ② 演題：「子宮頸がん検診のあり方について」 講師：戸澤 晃子 氏	18名

#### ② 神奈川県生活習慣病検診従事者研修会

臨床検査技師及び衛生検査技師に、がん細胞診に関する専門的知識と技術を習得させることにより、市町村が行うがん検診事業の充実と質の向上を図ることを目的として、「神奈川県臨床細胞学会」へ委託して年1回開催している。

対象者は、神奈川県内に所在する病院及び診療所等に勤務し、細胞診検査に従事している臨床検査技師であり、対象人数は20名程度。

研修内容は、子宮、乳腺、呼吸器、消化器、甲状腺等のがん細胞診に関する講義

及び実習で、臨床検査技師の細胞検査士資格認定に備えた研修会となっている。

■ 過去5年間の事業実績

年度	日程（3日間1コース）	参加人数
H27	9月5日、6日、12日	のべ62名
H28	9月11日、17日、18日	のべ63名
H29	9月3日、10日、11日	のべ60名
H30	9月9日、16日、17日	のべ69名
R01	9月8日、15日、16日	のべ63名

③ マンモグラフィ講習会・胃内視鏡検査に係る研修会開催への補助

乳がん検診（マンモグラフィ）及び胃内視鏡検査の精度向上のため、県医師会が実施するマンモグラフィ講習会（H19～）及び胃内視鏡検査に係る研修（H28のみ）の開催にあたり、県単独補助金の交付を行っている。

＜マンモグラフィ講習＞

目的：マンモグラフィ検診に従事するために必要な、十分な知識・技術を満たす医師及び技師を養成することを目的とする。

内容：日本乳がん検診精度管理中央機構（精中機構）が実施する認定講習会と同等のものとなっており、受講者は精中機構が実施する認定試験を受験する。

＜胃内視鏡検査に係る研修会（補助金の交付は平成28年度のみ）＞

目的：市町村における胃がん検診の胃内視鏡検査の実施に当たり、適切な体制を構築することを目的とする。

内容：「対策型検診のための胃内視鏡検診マニュアル 2015年度版」（一般社団法人日本消化器がん検診学会）のVI10に規定する研修カリキュラムに即したものとなっており、座学のみで認定試験等を行わない。

■ 過去5年間の補助金交付実績（平成28年度は両講習会への補助額の合計）

26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	R01年度
642千円	642千円	917千円	908千円	908千円	908千円

④ 神奈川県市町村がん検診実務担当者研修会

県内市町村のがん検診事業実務担当者に対し、神奈川県のがんの現状、改定計画の構成、今後のがん検診に対する県の考え方を説明し、市町村における効果的ながん検診の円滑な実施とがん検診の受診率及び精度の向上を図ることを目的として研修会を実施している。

年度	日程	内容	参加人数
H28	平成29年 1月16日 (月)	情報提供「被扶養者への特定健診とがん検診の同時実施について」 講座1 「神奈川県のがんの現状について」 講師：神奈川県立がんセンター臨床研究所がん予防情報学部 阪口昌彦氏	28市町 33名

		<p>内容：がん登録の意義、がん検診の評価方法、がん検診の評価に関する神奈川県における統計数値について、スライド資料に基づき説明。</p> <p>講座2 「がん検診実施に係る実務について」</p> <p>講師：神奈川県保健福祉局保健医療部がん・疾病対策課 職員</p>	
H29	平成30年 1月25日 (木)	<p>講座1 統計データから見るがん検診の現状について 内容：がんのり患や死亡の統計データについて説明。</p> <p>講座2 「がん検診実施に係る実務について」 内容：がん検診の実施及び精度管理に関する基礎知識、県内のプロセス指標及びチェックリストの遵守状況等、市町村における現状を説明した上で、市町村が実施すべき項目について、講義を行った。</p> <p>講座3 がん検診に関する県からのお知らせ 内容：国庫補助金についてや、次期計画におけるがん検診の記載について説明。あわせて、職域におけるがん検診実施状況調査の結果報告、県のがん対策推進員認定制度について紹介。</p> <p>その他 市町村がん検診の意見交換・課題共有</p>	25市町 34名
H30	平成31年 1月29日 (火)	<p>講座1 がん検診に関する県からのお知らせについて (1) がん検診事業に関する連絡事項 (新たなステージに入ったがん検診の総合支援事業について)</p> <p>(2) 「神奈川県がん対策推進計画」の改定及び今後の方向性について</p> <p>講座2 がん検診の精度管理について 講師 国立がん研究センターがん対策情報センター がん医療支援部 検診実施管理支援室長 高橋 宏和 氏</p> <p>① 「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」について</p> <p>② がん検診における精度管理の重要性について</p> <p>講座3 市町村がん検診実施における課題共有 (1) 受診率、精検受診率の市町村別状況について (2) 受診率、精検受診率向上の取組について(事例紹介) (3) 各グループ意見交換・課題共有・各グループ発表</p>	27市町 30名

## (2) がん・循環器病対策部会及び分科会における検診方法の検討

神奈川県生活習慣病対策委員会に「がん・循環器病対策部会\*」、同部会に6つの分科会(胃がん、大腸がん、肺がん、乳がん、子宮がん、循環器疾患等\*)を設置し、



6分科会を総称して「生活習慣病検診管理指導協議会」とし、各分科会を同協議会の部会としている。（※「がん・循環器病対策部会」「循環器疾患等分科会」は健康増進課所管）

部会・分科会において市町村がん検診の実施状況（受診率や要精検率等のデータ、チェックリスト等）を分析することにより、がん検診の精度管理を行っている。

また、がん検診の精度向上のための方策を検討協議し、協議結果について市町村健康増進主管課長会議等を通じて市町村に情報提供し、市町村がん検診の精度管理を支援している。

■ 各がん分科会の過去3年間の開催実績

年度	区分	開催日	出席委員	主な議題
H28	胃がん分科会	12月1日	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成25年度各がん検診の実施状況</li> <li>市町村等のがん検診の精度管理</li> <li>「事業評価のためのチェックリスト」等の改定</li> <li>悪性新生物登録事業年報（第40報）</li> <li>がん検診受診促進・精度管理のための主な取組み</li> </ul>
	大腸がん分科会	1月26日	5	
	肺がん分科会	11月30日	5	
	乳がん分科会	12月7日	6	
	子宮がん分科会	11月29日	7	
H29	胃がん分科会	12月5日	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成26年度各がん検診の実施状況</li> <li>市町村等のがん検診の精度管理</li> <li>今後のがん検診受診率の算出方法</li> <li>次期「国基本計画」及び「県計画」におけるがん検診の記載について</li> <li>がん検診受診促進・精度管理のための主な取組み</li> </ul>
	大腸がん分科会	1月11日	5	
	肺がん分科会	12月26日	5	
	乳がん分科会	12月19日	6	
	子宮がん分科会	11月21日	5	
H30	胃がん分科会	11月6日	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後のがん検診受診率の算出方法について</li> <li>平成27年度各がん検診の実施状況</li> <li>市町村等のがん検診の精度管理</li> <li>「神奈川県悪性新生物等濾器事業年報（第42報）」について</li> <li>「神奈川県がん対策推進計画（平成30年度～平成35年度）」におけるがん検診の記載について</li> <li>がん検診受診促進・精度管理のための主な取組み</li> </ul>
	大腸がん分科会	10月25日	4	
	肺がん分科会	11月16日	5	
	乳がん分科会	10月29日	6	
	子宮がん分科会	11月13日	6	

【参考：がん検診の精度管理と事業評価に関する国の考え方】

- 「がん検診のあり方に関する検討会中間報告書 ～がん検診の精度管理・事業評価及び受診率向上施策のあり方について～（H25年8月）」では、「がん検診の実施にあたっては、科学的根拠に基づく検診を、受診率向上を含めた適切な精度管理の下で実施することが重要である」とされて

いる。

- がん検診の精度管理とそれを推進するための事業評価については、厚生労働省「がん検診事業の評価に関する委員会」が平成20年3月にとりまとめた報告書「今後の我が国におけるがん検診事業評価の在り方について」でそのあり方が示され、「がん健康重点健康教育及びがん検診実施のための指針」及び「健康診査管理指導等事業実施のための指針」で、がん検診の精度管理・事業評価にあたっては平成20年報告書を参照するとされている。
- 平成20年の報告書では、精度管理を「目標と標準の設定」「質と達成度のモニタリング・分析」「改善に向けた取組」の3つの段階に整理しており、精度管理の指標と目標を設定し、そのモニタリングを行うことにより、改善を目指すことが示された。
- 「目標と標準の設定」に用いる指標は、「技術・体制的指標」「プロセス指標」「アウトカム指標」に整理されたが、「アウトカム指標」である「がん死亡率」の減少効果が現れるまでに相当の時間を要すること等から、「技術・体制的指標」「プロセス指標」による評価を徹底し、結果としての死亡率減少を目指すことが適当とされた。
- 「技術・体制的指標」として「事業評価のためのチェックリスト」及び「仕様書に明記すべき最低限の精度管理項目」が示された。また、要精密検査率や精検受診率等の「プロセス指標」については、許容値（一部の指標については目標値）が示された。

（※「事業評価のためのチェックリスト」については、「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」のH28.2.4の一部改正により、国立がん研究センターが示す「事業評価のためのチェックリスト」に置き換えることとされた。）

<がん検診事業評価に用いる指標>

技術・体制的指標	検診実施機関の体制の確保（設備、医師、技師等）、実施手順の確立
プロセス指標	がん検診受診率、要精検率、精検受診率、陽性反応適中度、がん発見率等
アウトカム指標	がん死亡率